

うしろから押し寄せながら鴨泳ぐ  
羽博つ鴨雁のすゝむをさえぎりぬ  
ドア開きし寒さ車内にひろがりぬ  
瀧風にうちのめさされて草枯るゝ  
濡れホース巻きて枯芝まみれかな  
枯芝にチューブの絵具踏みつけぬ  
門川の湖につながり菜を洗ふ  
おでん屋のノート鉛筆くゝりつけ  
寒鰯の滑りとまれば糶られり  
辞書とりに起ちしついで炭をつぐ  
ストーヴに寄せ集めても椅子足らず  
水馴棹二本並べて布団干す  
頬かむり広き額をかくしえず  
助手席の女もすなる頬被り

起つ夫を上目づかひや毛糸あむ  
肩にこぼるゝは壁土日向ぼこ  
押しあへる襖と柱隙間風  
ねむらんとする顔をさす隙間風  
横たはるホースつたひに火事見舞  
ひぐわれし岩もつれつゝ瀧涸るゝ  
筋一つちがふさびれや年の市  
膝叩き歌留多取る手をはげましぬ  
飯噴けば凍てたる窓を開きけり  
エレベーターガールかじかみ足踏みす

二〇一六年一〇月二五日